

佐那河内村学術講演会 第2回

棟付帳に見る江戸時代佐那河内の姿

令和4年11月6日
徳島県立文書館 館長
金原祐樹

はじめに

- 棟付帳という帳簿

◎村に住む家と個人を調べること（棟付改め）によって、その村の夫役（百姓役とも言う）を掛ける基準を決める基礎的な台帳。

◎阿波・淡路（蜂須賀領）で特別に作られた。他国にはほとんど類例がない。

◎江戸時代の中で完全に行われたのは4回（明暦・万治期、寛文・延宝期、正徳・享保期、文化期）とされる。このほか、安永期・嘉永期などに下調べ調査の帳簿が残る場合がある。

はじめに

- 稲木家文書の棟付帳

- ◎ 2002（平成14）年阿波学会「佐那河内村」総合学術調査の中で、地方史研究班（徳島地方史研究会）が調査。

- ◎ 『阿波学会研究紀要第48号』に地方史研究班が248点分の目録を掲載した。

- ◎ 全ての文書ではないが、棟付帳を中心にマイクロフィルムにて撮影し保存をしている。

- ◎ 村の庄屋であった稲木家が残した、佐那河内村の江戸時代を知る貴重な史料である。

はじめに

- 棟付帳からわかること

◎阿波・淡路両国の江戸時代全般に渡り人口の移動や変遷を把握することができる帳簿である。当時は徳島城や郡役所などにまとめて残っていたとされているが、現在は村の庄屋などが残していたものしかないので、地域で残っているこうした古文書は、貴重である。

◎記述内容 石高（文化期には記載無し）、壺家・小家（本家とそこに従属する家を記述。小家が独立すること）、身居（身分や役等棟付帳で固定された身分のこと。）、左書（経緯や現状を説明）

※本日は、稲木家棟付帳から村に居た庄屋・鍛冶屋・郷鉄砲を説明

1 稲木家文書の棟付帳

- 以西郡佐那河内村棟付人数改帳（万治元（1658）年）



◎総計353軒 1,144人 1,414石余

◎稲田三郎兵衛・野々村左門・林大学の国奉行3人に

よる棟付け改めの結果作成された棟付帳

◎本格的な初めての棟付帳である。

※寛文4年まで名西郡の東部と、名東分の西部を合わせた以西郡があった。（その他那賀郡と板野郡が東西に分かれていた）

1 稲木家文書の棟付帳

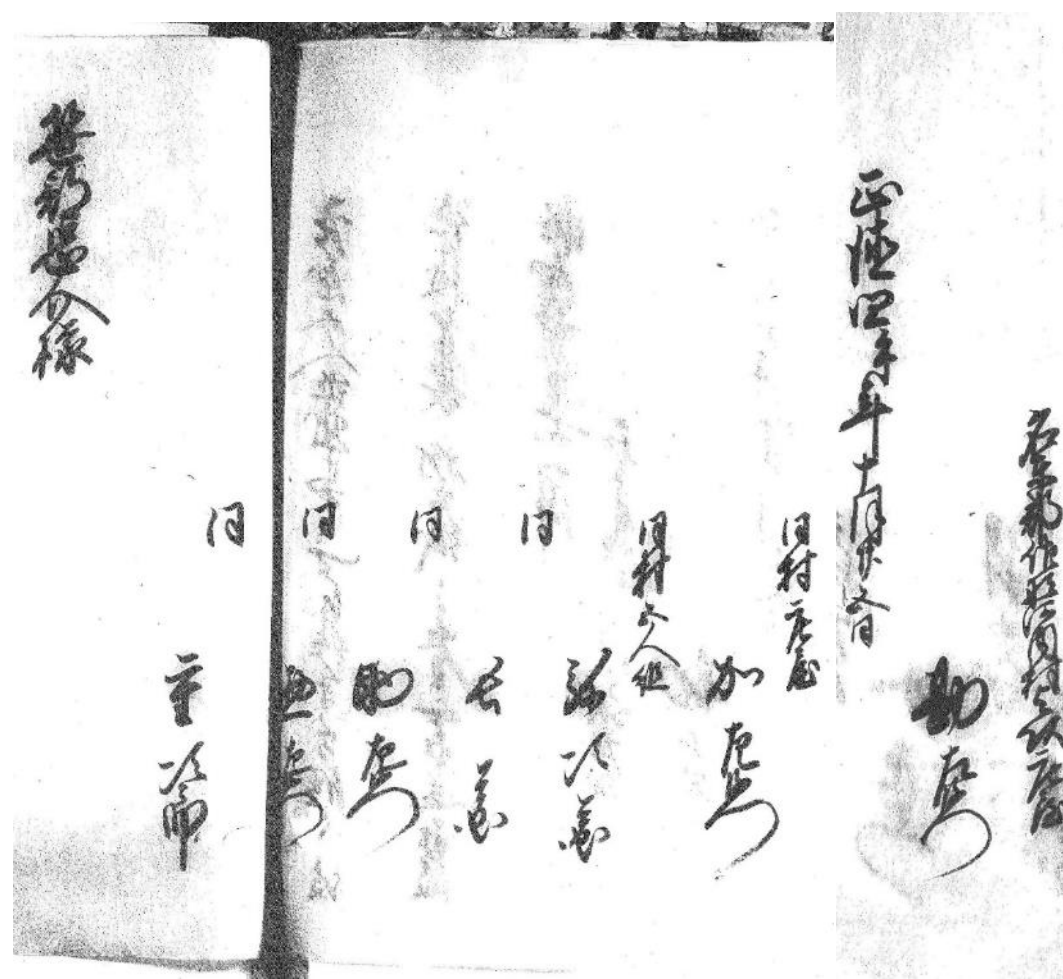
- 名東郡佐那河内村御棟付并人牛馬（寛文13（1673）年）



227軒・739人分
1,008石余
指出帳であり
完成前の帳簿

1 稲木家文書の棟付帳

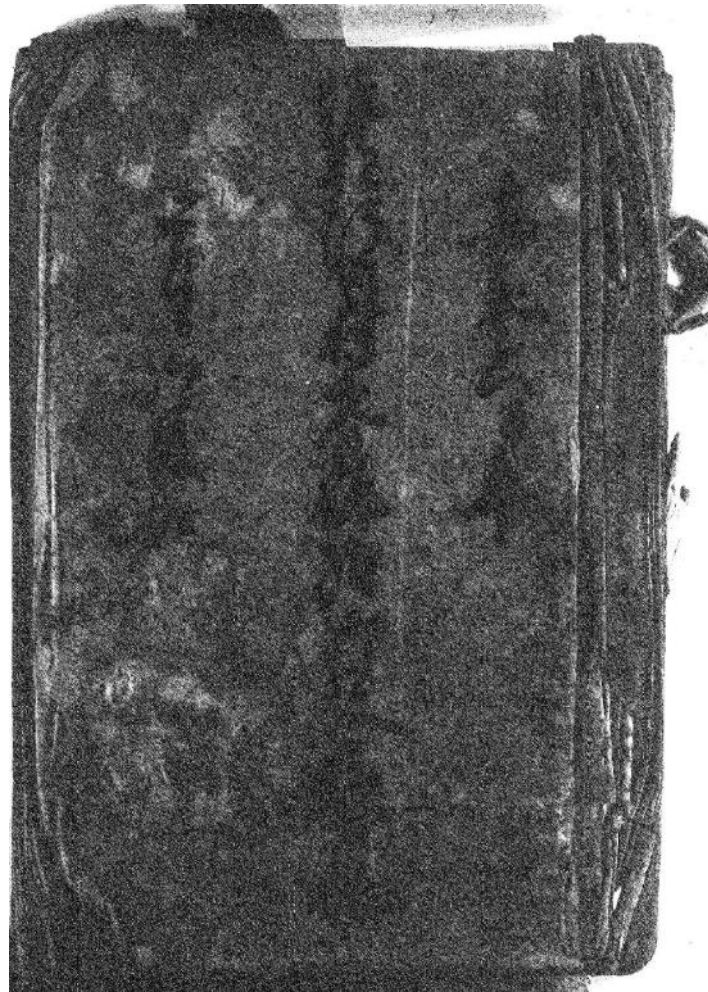
- 名東郡上佐那河内村棟付御改帳（正徳 4（1714）年



家数688軒 人数1904人
石高2,148石
笹部忠助（郡奉行）宛

1 稲木家文書の棟付帳

- 佐那河内村上分棟付御改指出帳（安永 6（1777）年）



総計・作成者等の記載無し
未完成の指出帳。控え文書か

1 稲木家文書の棟付帳

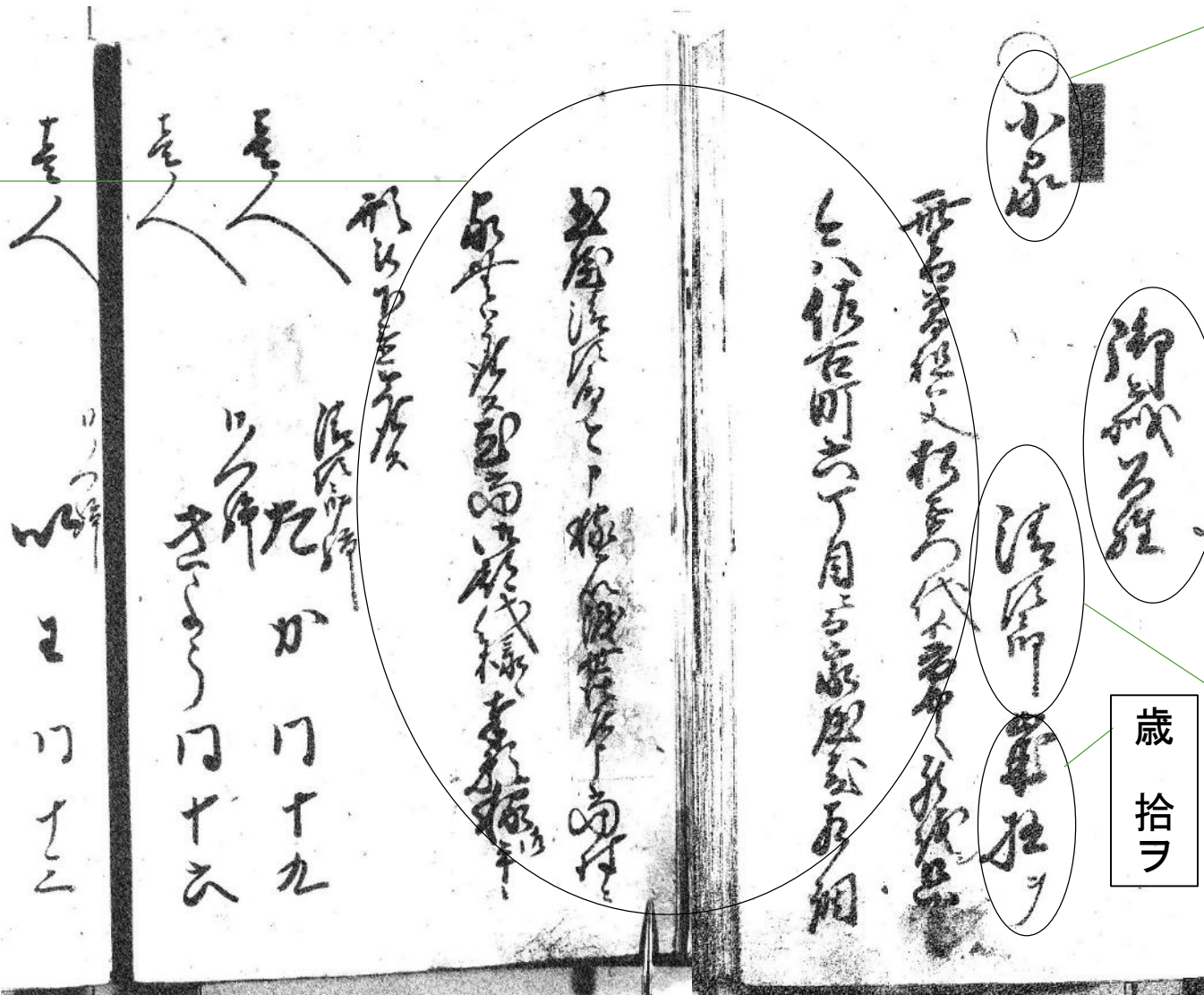
- 名東郡上佐那河内村棟付御改帳（文化8（1811）年）



家数353軒 人数1409人
速水善左衛門、伊勢黙介、福屋起三郎宛
(3人とも郡代)

1 稲木家文書の棟付帳

左書き
経過の説明



壺家
小家
小家

棟付帳の書き方

徳島市中に曾祖父の代から一家で移住しているとあるが、籍が村に残っている。
筆頭者の年が若いので、庇護をしている者が居るかもしれない。

身居
御蔵百姓

名前
清次郎

歳
拾ヲ

小家

御蔵百姓

清次郎

1 稲木家文書の棟付帳

- 御蔵百姓 : 藩直轄の百姓 給人の百姓は頭入百姓
 - 小家 : 壺家に従属する家
 - 左書 : 清次郎の曾祖父松右衛門の代に徳島市中に出て、今は佐古6丁目に屋敷を構え、玉屋清治郎の名で商売をしている。佐那河内村での仕事もある。郡代に届け出て、市中での稼ぎ手形を得ている。
- 家族 : 姉3人（文化の棟付帳なので、女性の記載がある）

2 棟付け帳記述の例 庄屋 1

万治元年 庄屋新左衛門家



2 棟付け帳記述の例 庄屋 2

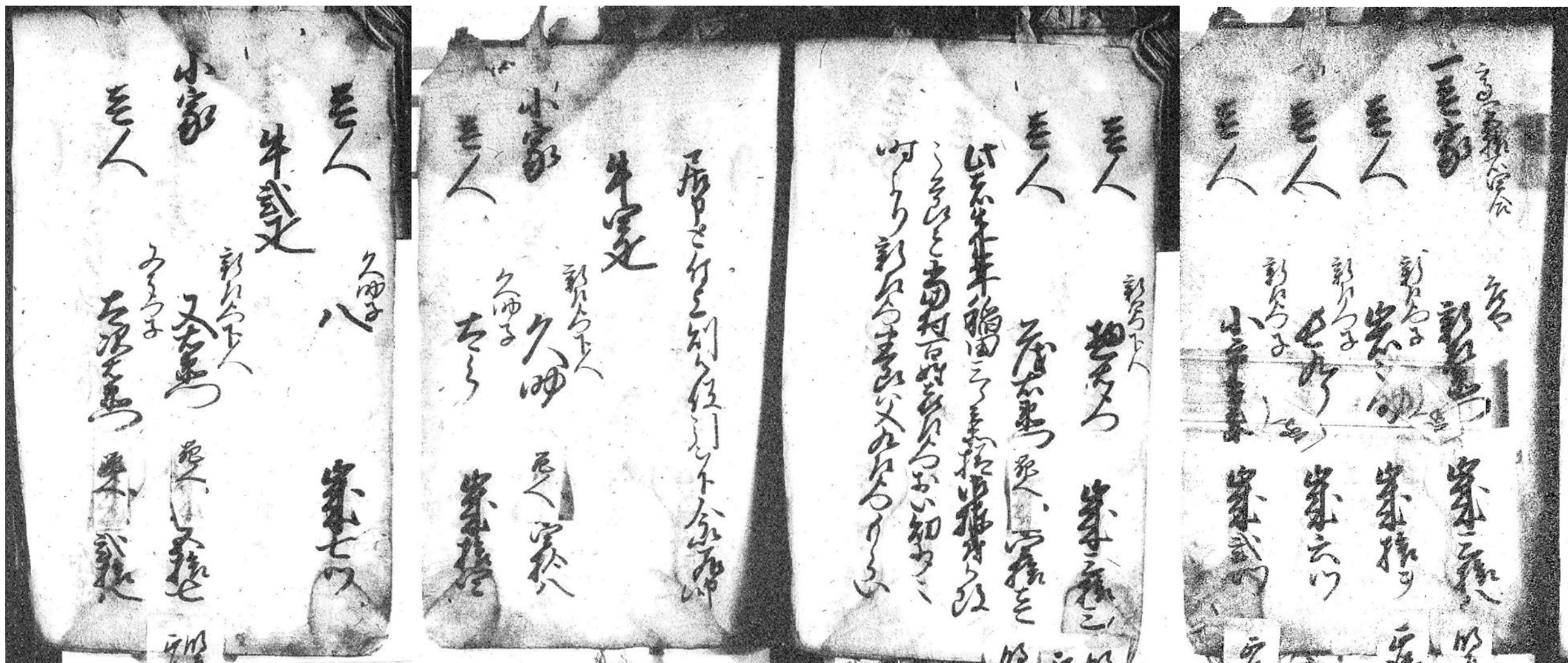
- 万治元（1658）年 佐那河内村庄屋新左衛門（22歳の若い庄屋）
- 高3 7石7斗2升3合
- 弟1名（3歳）
- 従兄1名（久右衛門）、従兄の弟2名
- 下人5名（内小家3家）、下人の子4名
- もらい人1名

◎ 壺家1、小家5 計15名の家

◎ 5つの家が集まった大家族である。（女性の記述はない）

2 棟付け帳記述の例 庄屋 3

寛文13年 庄屋新左衛門家 1



2 棟付け帳記述の例 庄屋4

寛文13年 庄屋新左衛門家2



2 棟付け帳記述の例 庄屋 5

- 寛文 1 3 (1673) 年 上佐那河内村庄屋新左衛門 (38歳)
- 石高 5 0 石 4 合 (1 2 石余増加)
- 子 3 名
- 弟 (小家) 1 名 弟下人 4 名 (内小家 2) 弟下人の子 4 名
- いとこ 3 名 (内小家 2) いとこの子 1 名
- 下人 4 名 (内小家 3) 下人の子 6 名 もらい子 1 名

◎ 壺家 1 小家 8 人数 2 8 名 9 つの家族が集まった大家族

◎ 小家も人数もかなり増加し、この 1 6 年間で家として充実していることがわかる。

2 棟付け帳記述の例 庄屋 6

文化8年 郷鉄砲庄屋 岩城政右衛門家



2 棟付け帳記述の例 庄屋 7

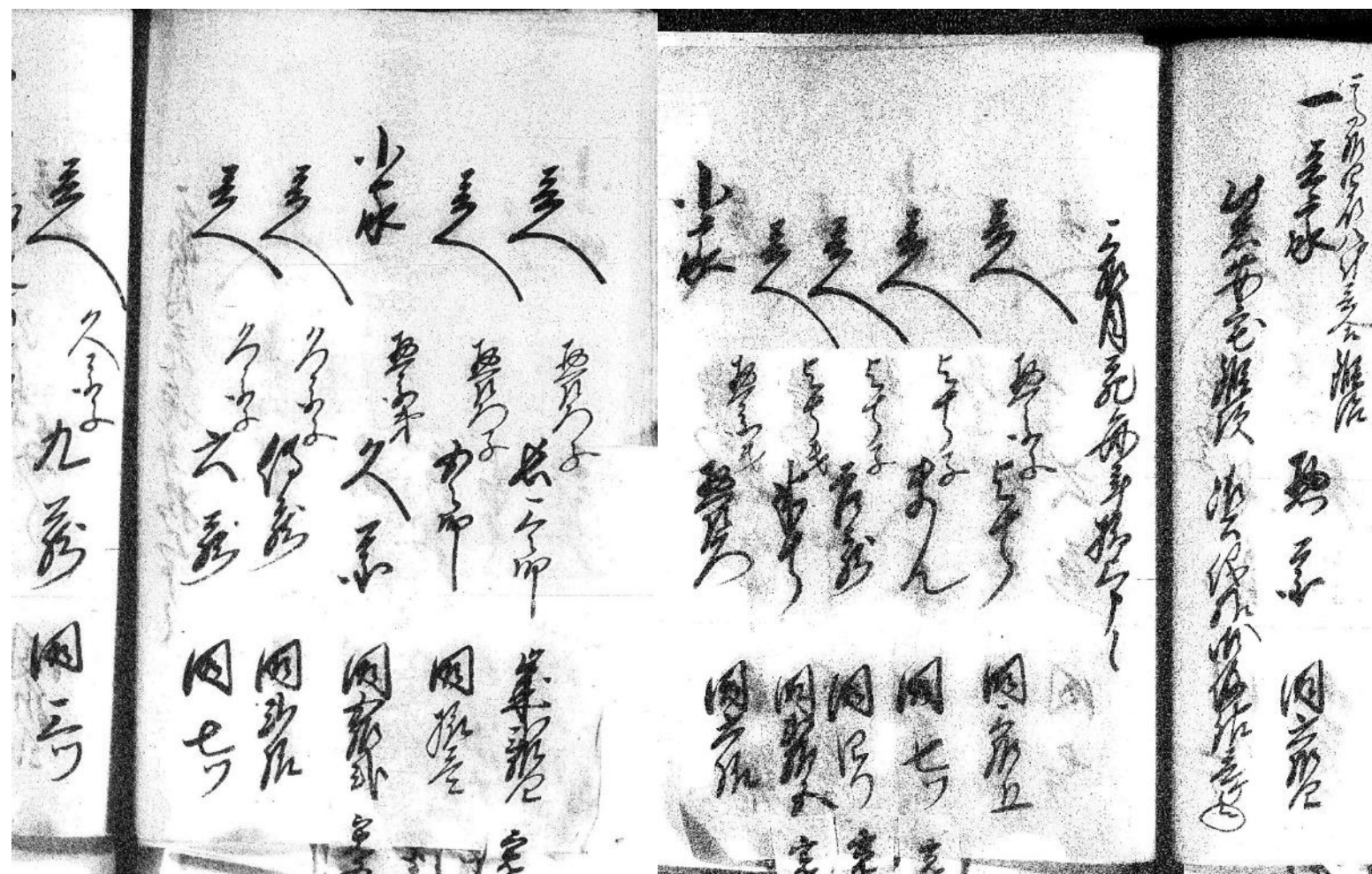
- 文化 8（1811）年 上佐那河内村庄屋岩城政右衛門（61歳）
 - 妻 1 人 子 3 人 完全な単婚小家族（核家族）の家
 - 正徳の棟付改めでは、覚右衛門という家の小家
 - 親紋右衛門の代になり小家から壺家へ
 - 政右衛門の代になり五人組役
 - 寛政 5（1793）年に庄屋役
 - 文化 7（1810）年に郷鉄砲役（家老佐渡美濃預かり）
- ◎小家が独立して、そのまま庄屋役まで進む。

2 棟付け帳記述の例 鍛冶屋 1

万治元年 安宅鍛冶 六兵衛



万治元年 安宅鍛冶 惣兵衛



2 棟付け帳記述の例 鍛冶屋 2

- 万治元年 安宅鍛冶 惣兵衛（64歳） 六兵衛（45歳）
- 惣兵衛家 子3名 弟2名 孫2名 甥5名
- 総計 小家2 人数12名
- 安宅鍛冶役銀1年30目 石高4石8斗
- 六兵衛家 養親1名 六兵衛子3名
- 総計 小家1 人数5名
- 鍛冶役銀15匁 石高5石6斗6升9合

◎安宅鍛冶は、藩海軍である安宅の鍛冶役。住吉にあった安宅役所に勤めに出たか。役銀を払い村内で鍛冶を行っていたかは不明。

2 棟付け帳記述の例 鍛冶屋 3

寛文13年 安宅鍛冶 作左衛門



2 棟付け帳記述の例 鍛冶屋 4

寛文13年 安宅鍛冶 六兵衛



2 棟付け帳記述の例 鍛冶屋 5

- 寛文 1 3 年 安宅鍛冶 作左衛門 (24歳) 六兵衛 (61歳)
- 作右衛門家 弟 2 名 叔父 1 名 いとこ 3 名 叔父の子 1 名 いとこの子 1 名 いとこの親 2 名 いとこの弟 1 名
- 総計 小家 4 人数 1 2 名
- 安宅鍛冶役銀 1 年 3 0 目 石高 1 7 石 3 斗 3 升 2 合
- 六兵衛家 養親 1 名 六兵衛子 2 名 弟 2 名
- 総計 人数 6 名
- 鍛冶役銀 1 5 匁 石高 5 石 9 斗 3 升 6 合

◎作右衛門は、惣兵衛の孫か。

2 棟付け帳記述の例 鍛冶屋 6

正徳4年 龍王鍛冶 理兵衛



2 棟付け帳記述の例 鍛冶屋 7

- 正徳 4 年 龍王鍛冶 理兵衛 (51歳)
- 理兵衛家 子 2 名 弟 (小家 丹兵衛・鍛冶役) 1 名 弟の子 1 名
- 総計 小家 1 人数 5 名
- 龍王鍛冶役銀 1 年 1 0 目 石高 1 石 9 斗 1 合
- 龍王鍛冶は、鍛冶蔵に鍛冶役銀を支払って刀鍛冶役となっている者。時々藩に雇われたという。兄弟で隣村の鬼籠野村から移って住み着いていることがわかる。

2 棟付け帳記述の例 鍛冶屋 8

安永 6 年 龍王鍛冶 理兵衛

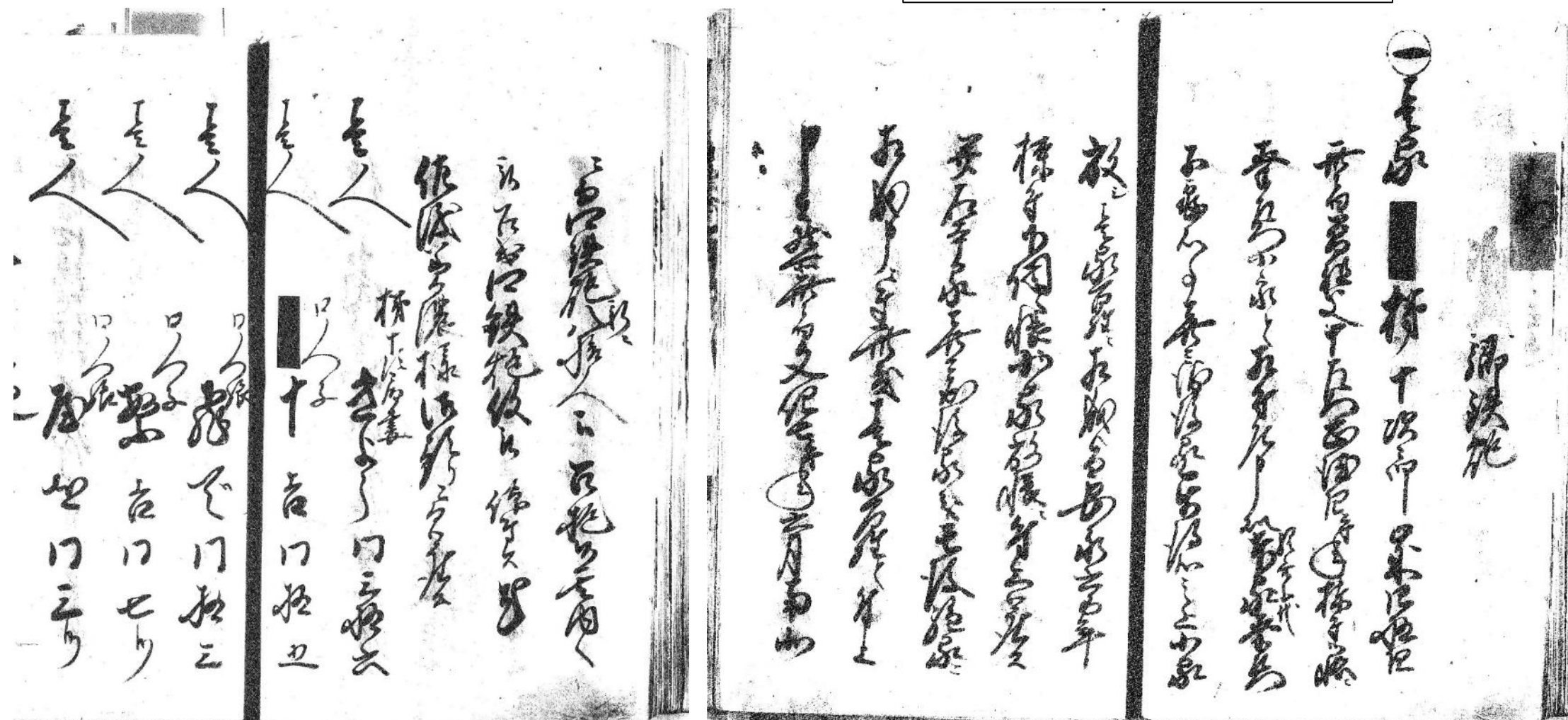


2 棟付け帳記述の例 鍛冶屋 9

- 安永 6 年 龍王鍛冶 理兵衛 (33歳)
- 理兵衛家 従弟 2 名 (小家 2 銀蔵・重太郎、2 人とも鍛冶役) 従弟 2 名
- 総計 小家 2 家 6 名
- 正徳 4 年の龍王鍛冶理兵衛はこの理兵衛の祖父である。小家である従弟の 2 名が同じく龍王鍛冶で役銀を差し出している。刀鍛冶は複数で作業を行うことが主であった。

2 棟付け帳記述の例 郷鉄砲 1

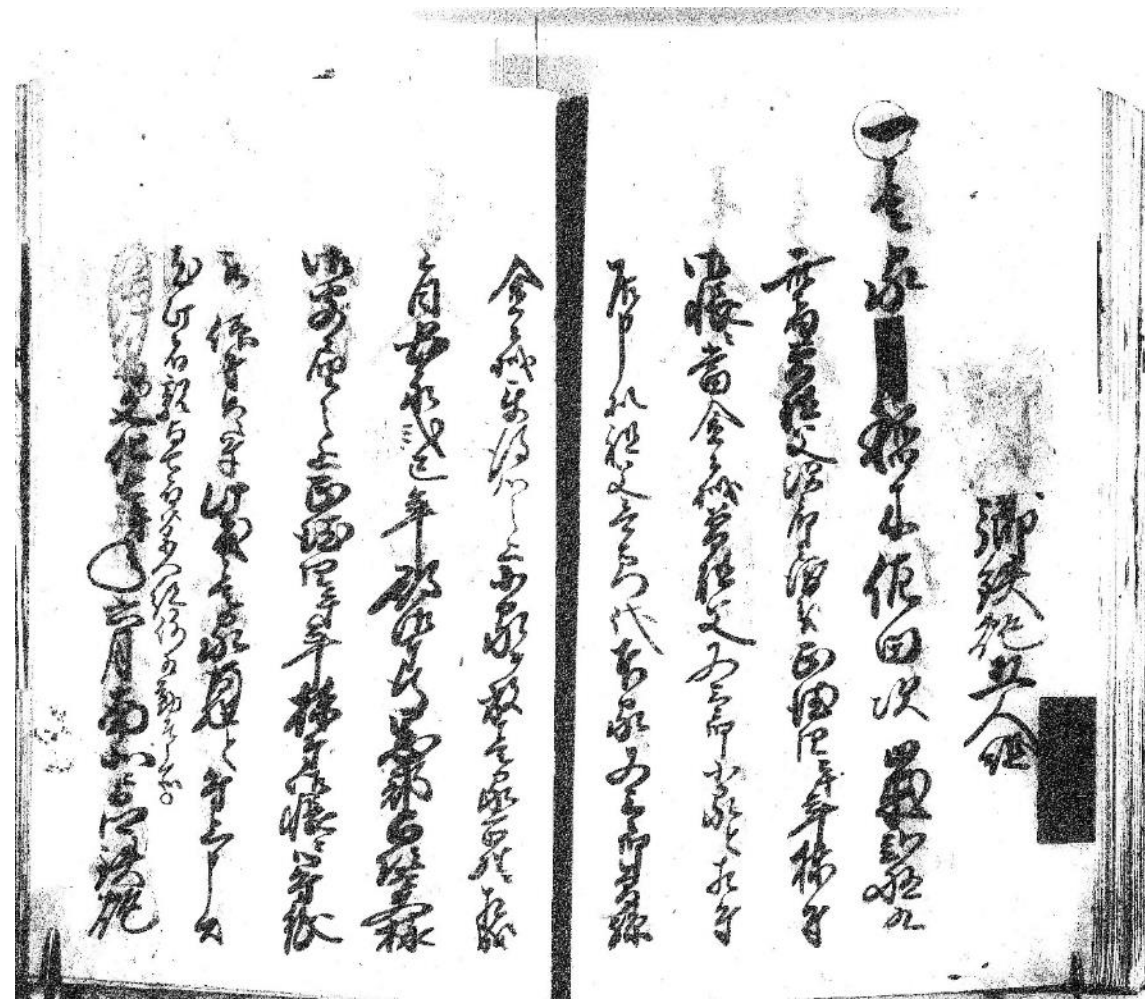
文化8年 郷鉄砲 梯十次郎



2 棟付け帳記述の例

郷鉄砲 2

文化8年 郷鉄砲五人組 稲木佐田次



2 棟付け帳記述の例 郷鉄砲 3

- 文化8（1811）年 郷鉄砲 梯十次郎（44歳）、郷鉄砲五人組 稲木佐田次（29歳）
- 梯十次郎家 妻1人 子4人 計6人 の核家族
- 曾祖父十左衛門の代には幸左衛門小家、親喜兵衛の代に壺家となる。本家はその後絶家となる。文化7（1810）年の新規郷鉄砲召し抱えて郷鉄砲となる。
- 稲木佐田次家 妻1人 父母2人 弟1人 子1人 計6人家族
- 曾祖父治郎兵衛の代には又三郎小家、祖父壺右衛門の代に壺家となる。親与七郎の代に五人組となり、文化7（1810）年の新規郷鉄砲召し抱えて郷鉄砲となる。

2 棟付け帳記述の例 郷鉄砲 4

- 郷鉄砲とは

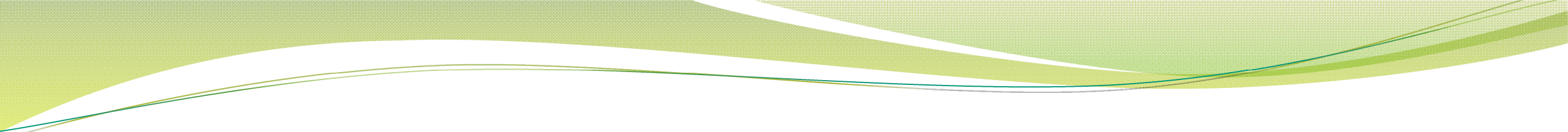
郷分で、10 匁筒の鉄砲を預けられた者。苗字帯刀御免。元々は、各郡に21名宛で1組（海部郡と三好郡は2組）で阿波国内に252人が置かれていた。

文化7（1811）年の郷鉄砲改革で、21名（1名は小頭）1組の郷鉄砲4組が増員された。これにより4組84名が増員され、16組336名の体制となった。6名の家老に2組宛、海部・那賀郡と三好・美馬郡の郡代に2組宛が預けられた。上佐那河内村のこの郷鉄砲3名は、下佐那河内村の10名の郷鉄砲と共に新規に召し抱えられた。

現在文書館で、阿波の郷鉄砲に関する展示を開催中！

おわりにかえて

- 棟付帳は、夫役という税を取るための台帳であるが、江戸時代の村に住んでいた人々や家のことを調べることが出来る資料でもある。
- 上佐那河内村稲木家に残された棟付帳の中身は膨大。文化8年の棟付帳で上佐那河内村は350軒、1400名の大村であった。残る5冊の棟付帳には佐那河内村に住む人々の膨大な情報が詰まっている。
- さらに江戸時代の佐那河内村への扉であるこれら棟付帳について、さらに検討を進めていきたい。



ご静聴ありがとうございました。

参考：阿波学会『阿波学会研究紀要第48号』（2002年3月）